■後宇多天皇　　第91代天皇。大覚寺統亀山天皇の第2皇子で，持明院統との分裂と抗争に翻弄されるも，"末代の英主"。
ごうだてんのう
・・・・・・1267＝　　土御門殿で生れる。亀山天皇の第2皇子。母は左大臣洞院実雄の女，京極院倍子，
北条時宗執権1268＝ 1歳：親王宣下があり，_立太子。

元寇文永の役1274＝ 7歳：_二条高倉内裏で受禅。父亀山上皇の院政がはじめられる。

・・・・・・1276＝ 9歳：
宋滅亡・・・1277＝10歳：元服。

北条時宗没・1284＝17歳：
霜月騒動・・1285＝18歳：

・・・・・・1287＝20歳：_持明院統の後深草上皇の嘆きに同情を寄せた幕府からの申入れで，皇位を持明院統の伏見天皇に譲る。

平禅門の乱・1293＝26歳：
・・・・・・1294＝27歳：

_その後の皇統が伏見・後伏見と2代にわたって持明院統に伝えられるに及び，幕府を責め，

後二条天皇・1301＝34歳：*自らの第一皇子の後二条天皇が即位し，待望の院政を開始。つとめて院の評定に臨席し，雑訴聴断の促進を図り，また学問にも熱心で，その治政は'乾元・嘉元の間，政理乱れず'と評される。"末代の英主"とたたえられるも最大の問題は，ますます激しさを加えてきた持明院・大覚寺両統の分裂と抗争で，
・・・・・・1303＝36歳：
_大覚寺統の総帥亀山法皇は後二条天皇のあとに後宇多の第2皇子尊治親王を皇位につけようとし，
・・・・・・1305＝38歳：_その崩御に際し，法皇の寵妃昭訓門院瑛子所生の恒明親王に皇統を伝えるよう遺命し，大覚寺統が3分される形勢となったが，断固として後二条天皇の系統を大覚寺統の嫡流と定め，皇統の分裂を回避。
・・・・・・1307＝40歳：_寵妃遊義門院?子内親王の薨去を悲しんでにわかに落飾。法名を金剛性と称し大覚寺に御所を造営した。
将軍追放入替1308＝41歳：*さらに，後二条天皇が幼少の邦良親王を残して崩じたことにより，いよいよ世俗を離れて仏道に励み，密教の教義をきわめるに至った。後宇多法皇から灌頂を受けたものも少なくない。持明院統の花園天皇が皇位につき，大覚寺統の次の天皇には尊治親王が中継ぎとして立つことになった。
・・・・・・1312＝45歳：

後醍醐天皇・1318＝51歳：*尊治親王(後醍醐天皇)が践祚すると，院政を再開，邦良親王を皇太子に立て，大覚寺統の皇統が後二条天皇の子孫に伝えられる体制を整えた後，

後醍醐親政始1321＝54歳：*吉田定房を院使として関東に下向させて幕府の同意を求め，院政を廃し，後醍醐天皇の親裁にゆだねた。
_以後は大覚寺にあってひたすら同寺の興隆と密教の研究に専念し，

正中の変・・1324＝57歳：_崩じた。